

令和元年度(2019 年度)

病害虫発生予察情報 第18号

9月月報

北海道病害虫防除所 令和元年(2019 年)10 月 16 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨・多照』 上旬は晴れて顕著な高温・少雨・多照－

この期間の天気は、上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多く、中旬は短い周期で変わった。気温は上旬は平年よりかなり高く、下旬は高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬は平年よりかなり少なく、月降水量は少なかった。日照時間は上旬と下旬は平年よりかなり多く、月間日照時間は多かった。なお上旬は、1961 年の統計開始以降、太平洋側の降水量が最も少なく、北海道地方の日照時間は最も多かった。

上旬：1 日は気圧の谷の影響で日本海側北部を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。2 日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れたが、次第に気圧の谷が通過して日本海側を中心に雨が降った。3～5 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。6 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線や湿った気流の影響により次第に広い範囲で雨が降った。7 日は前線や湿った気流の影響により広い範囲で雨が降った。8 日は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側を中心に晴れた所が多かった。9 日は気圧の尾根の中となって太平洋側を中心に晴れた所が多かった。10 日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。

中旬：11～12 日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降ったが、12 日は次第に高気圧に覆われて日本海側や太平洋側では晴れた。13 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。14 日は前線が接近して日本海側北部で雨が降ったが、太平洋側では高気圧の張り出しの中となって晴れた所もあった。15 日は前線が通過して日本海側やオホーツク海側を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側北部では晴れた所が多かった。16 日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。17 日は気圧の谷の影響でオホーツク海側を中心に雨が降ったが、次第に高気圧に覆われて全道的に晴れた。18 日は前線が通過して広い範囲で雨が降った。19～20 日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降ったが、太平洋側を中心に晴れた所も多かった。

下旬：21 日は高気圧に覆われて全道的に晴れたが、気圧の谷が接近して日本海側北部で雨が降った。22 日は、はじめ気圧の谷の影響により日本海側で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側では晴れた。23 日は台風第 17 号から変わった低気圧の影響で全道的に雨が降り、太平洋側では大雨となった所もあった。日降水量は福島町千軒で 137.0mm など。24 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で朝まで雨の降った所が多かったが、日中は広い範囲で晴れた。25 日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。26～27 日は高気圧に覆われて全道的に晴れたが、雨の降った所もあった。28 日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。29 日は気圧の谷の影響により日本海側南部や太平洋側西部で雨が降ったが、晴れた所もあった。日降水量は奥尻町稲穂で 56.5mm など。30 日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+1.2	高	67	少	121	多
日本海側10地点平均	+1.0	高	77	少	116	多
オホーツク海側4地点平均	+1.3	か高	57	少	113	多
太平洋側8地点平均	+1.4	高	58	少	133	か多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3 段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。

なお、平年値作成期間内の上位、下位 10% の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 やや少

予察田の「きらら 397」における穂いもちの発生量は北斗市で平年よりやや多く、岩見沢市、比布町では平年より少なかった。節いもちの発生量は、北斗市では平年より多く、岩見沢市、比布町では平年より少なかった。

予察田における水稻の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8.9	48.3	—	—	8
	ななつぼし	21.2	61.4	—	—	8
比布町	きらら397	38.8	70.5	—	64.6	10
	ななつぼし	48.4	57.3	—	68.7	3
北斗市	きらら397	59.3	45.7	—	57.4	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)本年値の一は成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稻の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0.2	15.9	—	—	8
	ななつぼし	2.4	34.3	—	—	8
比布町	きらら397	0.4	11.5	—	18.3	10
	ななつぼし	0.2	9.1	—	15.5	3
北斗市	きらら397	26.1	11.9	—	22.9	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)本年値の一は成熟期を迎えたため調査終了

2. 紋枯病 発生量 やや多

予察田における発生量は、岩見沢市では平年並で、北斗市では平年より多かった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	14.9	19.3	19.0	24.8	8
北斗市	きらら397	53.6	19.7	－	17.9	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. ニカメイガ 発生量 少

予察田における被害茎率は、長沼町で平年より低かった。北斗市では被害が認められなかった。

予察田におけるニカメイガによる被害茎率(%)

長沼町		北斗市	
本年	平年	本年	平年
0.7	5.8	0	0.06

注) 平年数: 長沼町は7年、北斗市は10年。

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 多

< 7月 19日付け注意報第5号 >

< 8月 2日付け注意報第7号 >

予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点においても平年より多かった。

予察田における成虫のすくい取り虫数は、いずれの地点においても平年より多かった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	42	96.6	16	20.6	46	26.6	20	2.1	0	0.3	5	2.8
2半旬	207	52.2	289	10.2	154	3.4	0	1.1	0	1.1	13	2.5
3半旬	56	18.9	20	9.8	6	1.7	0	1.3	10	0.6	5	1.8
4半旬	1	9.0	1	25.2	3	2.0	0	0.4	5	0	0	1.0
5半旬	0	1.7	0	0	0	0.2	-	0.2	-	1.9	2.5	0
6半旬	4	4.2	0	0	0	0.1	1.3	0	-	-	-	0
平年数	10		10		10		7		10		10	

注) - : 調査不能または収穫期を迎えたため調査終了

B. 豆類

1. ベと病(大豆) 発生量 並

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年並であった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	26.5	29.7	－	28.5	10

注) - は落葉のため調査不能

2. アズキノメイガ(小豆) 発生量 並

予察ほにおける被害株率は、長沼町で平年より高く、芽室町および訓子府町では平年並であった。被害率は、長沼町および訓子府町で平年並、芽室町では平年よりやや低かった。

予察ほにおけるアズキノメイガの被害状況

地点	品種	被害株率(%)		被害莢率(%)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	92.0	69.6	6.2	5.7	10
芽室町	きたのおとめ	32.0	39.5	0.8	1.8	10
訓子府町	きたのおとめ	42.0	45.5	2.2	2.3	10

C. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、長沼町、芽室町の「あまいぶき」では平年よりやや少なく、訓子府町の「リッカ」では平年より少なかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン	47.6	55.8	64.4	66.6	76.8	77.1	4
	あまいぶき	54.0	76.1	73.6	86.5	90.0	92.4	9
芽室町	ライエン	66.4	47.8	71.6	55.6	82.4	69.9	4
	あまいぶき	70.8	74.9	79.2	85.1	84.4	95.1	7
	スタウト	51.6	51.4	60.4	62.4	71.2	62.4	8
訓子府町	リッカ	46.4	69.2	57.6	78.8	72.8	86.2	10

2. ヨトウガ（第2回） 発生量 並

< 6月12日付け注意報第4号 >

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、芽室町で平年よりやや高く、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや低かった。

一般ほにおける9月3半旬の巡回調査によると、被害株率50%以上となった地点は十勝地方の1地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	65	53.2	40	36.9	36	40.8
2半旬	72	58.6	46	40.9	38	45.1
3半旬	73	65.2	51	42.9	45	50.3
4半旬	73	68.3	57	47.2	47	57.0
5半旬	73	70.6	62	51.0	53	60.5
6半旬	73	74.1	66	52.8	56	64.2
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及 センター		地点 数	9月3半旬		普及 センター		地点 数	9月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	南東部	1	0	6.0	網走	本所	10	3.2	8.4
石狩	本所	4	10.5	13.0		清里	5	6.8	5.0
後志	本所	3	8.0	43.3		網走	2	0	3.0
胆振	本所	4	7.0	3.8		美幌	5	1.6	0
	東胆振	3	12.7	5.3		遠軽	9	10.9	11.8
上川	富良野	3	8.7	39.3	十勝	本所	5	1.8	1.0
	大雪	3	0.7	15.3		東部	6	9.0	3.3
	士別	2	0	0		東北部	4	44.0	6.3
	名寄	1	4.0	23.0		北部	3	0.7	5.0
西部						3	3.0	8.7	
					南部	3	0	0.3	

D. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおける軟腐病の発生は平年よりやや少なかった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	夏播き	0	2.2	0	3.5	1.8	3.7	10

2. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市で平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	16.0	2	12.2
2半旬	0	10.1	20	12.5
3半旬	1	17.4	22	13.3
4半旬	0	34.3	30	15.5
5半旬	1	25.6	35	9.5
6半旬	2	26.0	44	11.6
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生幼虫数。

3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町、比布町、北斗市および芽室町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。滝川市では誘殺が認められなかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町および北斗市で平年並であった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	14	22.5	3	4.0	12	3.5	5	0.2	2	1.8	0	0.6
2半旬	13	20.1	1	0.8	6	4.4	1	0.2	0	1.0	0	0.4
3半旬	2	8.5	1	0.8	5	7.2	0	0.1	0	0.7	0	0.8
4半旬	10	11.0	0	0.5	6	5.3	0	0	0	1.2	0	0.4
5半旬	8	6.5	2	3.0	2	6.6	1	0.3	0	0.5	0	0
6半旬	3	6.1	1	4.8	0	8.2	0	0	0	0.7	0	0.8
平年数	10		4		10		10		10		6	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	8.3	3	13.7
2半旬	5	6.9	2	9.6
3半旬	16	5.6	4	1.7
4半旬	8	4.5	12	3.8
5半旬	3	3.8	11	3.2
6半旬	9	2.6	2	3.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生幼虫数。

E. りんご

1. 黒星病

発生量 やや多

<4月22日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）における発生量は、「昂林」で平年より多く、「つがる」で平年並であった。余市町Bの予察園（慣行防除）では「つがる」で平年より少なかった。余市町Cの「王林」においても発生が認められた。

9月3半旬の巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	86.6	51.2	53.1	26.3	10
	つがる	30.4	38.2	17.9	18.1	10
余市町B	つがる	0.4	3.9	—	—	10
余市町C	王林	0.1	—	—	—	—

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町（慣行防除）は9月4週目の調査結果

注2) —は調査対象外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	3	0.9	15.6
胆振	本所	1	0	5.0
渡島	本所	4	1.3	51.9
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病

発生量 やや多

長沼町の予察園（無防除）における発生量は、平年よりやや多かった。余市町の予察園（慣行防除）においても発生が認められた。

一般園における巡回調査の報告によると、感受性品種を調査対象にしている後志、留萌地方で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	8.1	7.1	0.2	0.1	9
	王林(徒長枝)	14.5	4.9	0.3	0.1	9
余市町C	王林	1.9	—	—	—	—

注1) 長沼町は9月4半旬、余市町（慣行防除）は9月4週目の調査結果

注2) —は調査対象外または平年値なしを示す

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	3	4.8	0.7
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	2.0
留萌	南留萌	1	61.0	62.3

3. モモシクイガ 発生量 並

長沼町の予察園におけるモモシクイガの産卵数は平年並であった。予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町A、同町Bでは平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市、壮瞥町で平年より多く、岩見沢市、七飯町、旭川市で平年並、伊達市では平年より少なかった。

予察園におけるモモシクイガの産卵数およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	産卵数		被害果率(%)		フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町				長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	78	67.1	100	100	92	21.9	18.5	15.8	27.1	20.5
2半旬	19	33.0	100	100	75	17.8	10.3	5.9	7.5	11.5
3半旬	10	10.7	100	100	－	5.7	3.1	2.1	3.1	4.8
4半旬	0	3.0	100	100	0	0.5	1.3	1.3	1.3	2.6
5半旬					0	0.3	0	1.3	0	0.3
6半旬					0	0	0	0.8	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 産卵数は100果調査。

注3) —は未調査。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	5.6	1.0	31.9	4.1	4.8	16.8	22.1	5.6	20	13.9	6	8.9
2半旬	5	0.8	15.5	1.2	2.7	10.4	13.6	3.5	0.2	7.3	3	5.4
3半旬	0.6	0.6	0	0.4	0	5.9	1.3	1.0	0.2	3.7	0	0.9
4半旬	0.3	0.1	0	0	0	5.0	0.5	0.7	0.2	1.8	0	0.2
5半旬	0	0	0	0	0	0.3	0	0.1	0.2	1.1	0	0
6半旬	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

4. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニは、いずれの地点においても発生が認められなかった。ナミハダニは、余市町A、同町Bともに発生が平年よりやや少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	6.4	0	1.0	0	0	0	3.4	1	1.5	0	0.5
2半旬	0	0.9	0	0.8	0	1.0	0	0.6	0	3.2	0	4.2
3半旬	0	1.9	-	0.2	-	0.4	0	0.8	-	0.2	-	2.8
4半旬	0	0.3	0	0	0	4.0	0	0.1	1	3.3	2	0.2
5半旬	0	0.1	0	0.7	0	0	0	0.2	1	0	0	0
6半旬	0	0	-	0.1	-	0.8	0	0	-	0.8	-	1.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生数。

注3) -は未調査。

5. キンモンホソガ 発生量 少

予察園における被害葉率は、いずれの地点においても平年より低かった。予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町Aで平年よりやや少なく、余市町Bでは平年よりやや多かった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、増毛町で平年よりやや多く、札幌市で平年並、岩見沢市、石狩市、伊達市、壮瞥町および七飯町では平年より少なかった。旭川市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	被害葉率(%)						フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	8.2	20.6	0.3	0.7	0.2	0	16.6	31.5	82.3	278.2	149.1	73.5
2半旬	7.8	23.7	0.4	1.8	0.6	0.3	8.4	36.6	99.4	248.6	121.8	83.7
3半旬	13.8	25.4	-	1.0	-	0.3	3	28.7	145.6	145.3	143.1	77.0
4半旬	13.3	29.2	0	1.6	0	0.6	0	11.5	69	92.5	61.5	71.1
5半旬	16.1	35.2	0	0.3	0.1	0.6	0	3.5	14.3	51.0	6.4	37.3
6半旬	13.1	38.5	-	1.0	-	0.3	1	1.2	0	24.0	3.3	19.9
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) -は未調査。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0.4	84.1	3.4	6.3	1	72.5	1.7	15.1	6.7	498.0	0.5	47.2	0	0.7	283.3	191.5
2半旬	0.3	55.4	0.8	4.5	0	129.1	3.3	21.9	10.9	521.4	0.2	72.3	0	2.0	327.8	232.4
3半旬	0.4	18.1	2.0	2.2	0	150.6	0	15.9	4.4	406.1	0.2	97.5	0	1.0	448.8	180.1
4半旬	0.8	4.2	1.0	0.7	0	162.0	0	3.0	4.8	273.2	0.2	97.4	0	0.4	346.5	177.1
5半旬	0.3	2.7	0	0.3	1	65.4	0	3.2	4.0	103.4	0.2	47.1	0	0.3	86.0	91.1
6半旬	0	2.6	0	0.2	0	26.5	0	0.4	0	49.6	0	24.0	0	0	65.0	34.1
平年数	10		10		5		10		10		10		8		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111（内線）27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。